

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム多賀の里
所在地	愛媛県西条市北条231番地1
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/">https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方とのつながりを大切にしながら、認知症の方でも穏やかに暮らしていけるよう支援している。又医療との連携を密にし、安心して過ごしていただけるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して11年経過した事業所は地域との交流が深く、「多賀の里」として地域に根ざした事業所となっている。母体法人は多数の高齢者や障害者の事業所を展開しており、事業所間の交流や他職種との交流を図り、法人内の勉強会や新人教育にも熱心に取り組み、法人全体のレベルアップを図っている。3ユニットともに男性職員が副主任を務め、「利用者の声なき声に耳を傾け利用者の笑顔が絶えないように」との共通意識を持って事業所を盛り立てている。管理者と職員は信頼関係が構築されており、事業所の「安全」を目標に掲げ、ヒヤリハットを集約して検討するなど、利用者がより安全な生活を送れるように取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム多賀の里

(ユニット名) 壱丁目

記入者(管理者)

氏名 武田良太(目見田恵子)

評価完了日 H25年9月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は職員の名札の裏に記載し、自分自身で確認したり、会の時にも話合っている。また、ユニットの理念もあり、リビングや詰所に貼ることで意識し、日々の業務の中でその理念に近づけるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 開設から11年になる事業所は、当初に作成した理念を継続している。理念はユニット会や勤続年数に応じて開催される会議の中で確認し合っている。また、ユニット毎に掲示して職員全員が共有し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域とのつながりが深く、施設に様々な提案をしてくれている。虫カゴ作りやわらじを作ったりとボランティアにも来てくれている。地域支援に優れており、学生と触れ合う機会を作ったりと日常的に交流している。年に2回、神社を掃除したりと来所していただくだけでなく、こちらからも積極的に関わっている。</p> <p>(外部評価) 地域住民がボランティアで麦を手刈りして用意した物で麦わら細工やわらで草鞋、しめ縄を作りをしてくれ、事業所の行事には準備段階から参加協力をしてくれる。また、ボランティアによるコーラスやフラダンス、2か月に1回の絵手紙の指導、住職が写経や法話等を受け入れている。年2回、職員による神社の掃除や草引きを行い積極的に交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方に積極的に施設に入っていただくことにより、認知症の方と関わる機会を作ったり、夏祭りの時には介護相談を行ったりしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 御利用者の日々の状況やサービス内容を説明したり、 職員がどのような研修へ参加しているのか報告してい る。沢山の意見を頂き、よりよいサービスが提供でき るよう努めている。	会議には地域住民等、多数の参加を得て開催すること ができているが、議題を決めて積極的な意見交換を行 うことを望みたい。また、会議で出された意見を反映 し、ケアの向上に活かすことができるように、さらな る取組みを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、地域住民、市担 当者、職員等の参加を得て開催している。開催には多 数の参加者が得られるよう夕方に開催する工夫をして いる。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、 意見交換を行っている。会議録は玄関に置き誰でも閲 覧でき、各ユニットにも配布し、必要に応じて朝の申 し送りで報告する等、職員全員が共有してサービス向 上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の受け入れ、地域運営推進会議に参加して 頂くなど、普段から関わりを持つように努め、サービ ス向上に努めている。	
			(外部評価) 市担当者には運営推進会議に毎回参加してもらい、事 業所の状況報告や情報交換を行っている。困難事例の 相談でアドバイスをもらったり、困った場合には親身 になって相談にのってもらえることができる。介護相談 員も毎月の訪問があり、気軽に相談できる関係ができ ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会も含め、内容と弊害を認識 し、一人ひとりが拘束は行わないという姿勢で取り組 んでいる。ユニット会や業務の中で声を掛け合い、職 員同士で目配りをしている。	
			(外部評価) 胃ろうの管を抜く利用者に対して、家族と話し合いを 行いミトンを使用し嚥下機能訓練を行い胃ろうを外す ことができた事例がある。外出しようとする利用者 には、職員が付き添いながら対応する等、自由な外出を 支援している。職員は内部や外部研修に参加し、職員 全員で共有して身体拘束をしないケアを実践してい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や研修にて学んでいる。職員一人ひとりが御利用者の尊厳を守り、スタッフ同士が目配りしながら、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、参加した職員は他の職員へ書類で報告している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分説明している。不安や疑問点があれば、いつでも説明をし、理解、納得できるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者や御家族が意見や要望を言いやすいよう、普段から声をかけたりと雰囲気作りを行っている。面会時には要望や意見を聞くよう心がけており、出された意見は記録し、話し合い対応している。また、玄関には意見箱がある。	
			(外部評価) 日頃から家族と管理者や職員とのコミュニケーションが取れており、訪問時に意見や要望を聞くことができる。家族から出された「トイレの戸が狭い」という意見に対し、戸をカーテンに変更する等、できるだけ早い対応に努めている。玄関に意見箱を設置し、利用者や家族から意見を出しやすい工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員は普段からコミュニケーションを積極的に取っている。面接も定期的に行っており、意見や提案をする事が出来ている。	
			(外部評価) 職員一人ひとりが目標を立て自己評価を行い、年2回の管理者との面談で上司や会社への意見や要望を言うことができる。すぐに解決できないことは上層部に報告し対応している。管理者と職員との信頼関係が構築されており、日頃から意見やアイデアを積極的に出し合い日々のケアに活かしている。新人教育にも熱心に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 入職時に給与水準や労働時間など話をしている。やりがいがあるよう、コミュニケーションは取っている。管理者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修へ出来るだけ参加してもらい、個々のスキルアップに努めている。法人内の研修では各職員が講師となる事で、再度学ぶ機会作りをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加したり、法人外の研修へ参加し、同業者と交流する機会を作っている。感じたこと、学んだことを他のスタッフに報告し、サービスの向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来るだけ早く慣れて頂けるように、御本人に寄り添い、コミュニケーションをよく取る事で御本人との関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族にとっても利用開始時は特に不安な為、御家族にもよく声をかけ、話を聴くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 御本人や御家族の思いを聴く事で、何が必要かを見きわけて対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 御利用者へ職員から「ありがとう」を言えるよう、共に何かをする事で、役に立っているという生きがいを感じてもらえるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御本人を支える為に、御家族に御本人の情報を聞くと同時に、施設での様子を報告し、御家族と相談しながら支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域資源を活用し、馴染みの場所や人との関係を出来るだけ継続できるよう、外出などを行い、支援している。  (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を把握し、墓参り等に出かけられるよう支援をしている。近隣住民の訪問を大切にしているが、利用者の高齢化やレベル低下に伴い困難になっている。現在は、利用者同士のユニット間の交流や同敷地内のデイサービスとの交流など、新たな馴染みの関係が築かれ大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 御利用者同士の関係が上手く行く様に、職員は御利用者の関係や気分の状態を把握し、上手く距離が保てるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、必要に応じて御本人や御家族の相談を受け、経過をフォローしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃よりコミュニケーションをよく取る事で、御利用者の思いの把握に努めている。上手く御自分の思いを訴える事が出来ない方には、表情や仕草など観察を行い、思いの把握に努め、御本人の気持ちとなって検討している。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で、利用者から思いや意向を聞き取り把握するように努めている。把握が困難な利用者には、表情や日々の動作の中できみ取るよう努めている。散歩や外出をすると元気になる利用者には、外出する機会を多くする等、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できるだけ生活環境を変えないよう、これまでの暮らしについて御本人や御家族などに話を聞き、情報収集を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 総合的に把握できる様アセスメントシートを作成し、職員同士が情報を共有している。また、日常的には気付きを職員同士で話をしたり、申し送りノートに記入することで情報の共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 御利用者には、どのような生活がしたいのか聴き、御 家族の要望を確認しながら、御家族や職員でより良く 暮らす為の話し合いをし、介護計画書を作成している。 基本は3ヶ月おきには変更しているが、御本人の状態が 変われば、その都度介護計画書を立案している。	
			(外部評価) 利用者や家族から思いや意向を把握し、介護計画に反 映している。職員が利用者の日々の生活の中でくみ 取った思いを話し合い、追加や修正をして介護計画を 作成している。介護計画の見直しや利用者の体調の変 化がある時は、書類を郵送して家族の意見を聞いている。 サービス実施状況を生活記録に記載し、月1回の モニタリングに活かしている。また、職員間で毎月カ ンファレンスを行い、現状に即した計画書を作成して いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 生活記録には詳しく記入しているが、業務日誌、申し 送りノートなどにも記入し、職員同士が情報の共有が できるようにしている。また、その都度職員同士で声 を掛け合い、介護をしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 御利用者の思いや御家族の要望に応じて、できる限り 取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができ よう支援している	(自己評価) 近くにある神社へお参りしたり、ドライブ等の外出を することで地域との関わりを持っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 週1回、協力医の往診により日常の体調管理をしてい る。御利用者、御家族様の希望するかかりつけの医療 を受けている。状態により御家族にも同行してもら い、適切な医療が受けれるよう支援している。	
			(外部評価) 週1回の往診と夜間対応をしてくれる安心感から、協 力病院をかかりつけ医としている利用者や家族が多 い。協力病院以外の受診は家族の協力を得て受診す ることができ、家族が同行できない時は職員が対応を している。受診後の病状や服薬変更等は家族に電話や訪 問時に詳細に報告している。利用者や家族、医療関係 者、職員が連携を図りながら、適切な医療を受けるこ とができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員は体調の把握に努め、看護師に報告している。状 況に応じて、主治医に報告し、指示を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、きめ細かく主治医や協力病院と連絡を取り 合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 定期的に入居者の御家族と話し合いの場をもち、意思 を確認している。特に状況に変化が見られたときに は、主治医の助言や施設としての考えを伝え、御家族 と話し合っている。	
			(外部評価) 家族の強い要望により過去に看取りの実例はあるが、 現在は事業所の職員体制やハード面を考慮して看取り は行わない方針である。入居時に事業所の方針を説明 して、利用者や家族に理解を得ている。また、利用者 の状態の変化に応じて、利用者や家族、医師、職員で 話し合いながら適切な対応を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変に備えて定期的に勉強会を行ったり、消防署から救急隊員に来て頂き、訓練も行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練や水害訓練を実施し、簡易担架の作り方も勉強している。各ユニットには非常食など避難時に必要な物も準備している。災害時には地域の方に協力して頂けるようお願いしている。	
			(外部評価) 年2回消防訓練を実施し、内1回は消防署の協力を得て訓練を実施し、意見やアドバイスをもらっている。また、年1回の水害訓練も実施している。訓練では消火設備の点検や避難経路、避難場所などを確認している。防災マップや非常出口が分かるようにユニット毎に掲示している。災害時には地域住民の協力承諾をもらっている。非常食は乾パンを用意し、防災の日に半分を食べている。	地域とのつながりが強く、地域住民の協力者も多いことから、地域住民と一緒に防災訓練を実施し、いつ起こるか分からない災害に対して、より効果的に対応できる体制づくりを期待したい。また、緊急連絡網を活用した訓練を実施するなど職員の防災意識のさらなる強化を望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人を大切にし、その人に合ったケアを心がけている。自尊心を傷つけないように、言葉掛けや対応については注意を払っている。	
			(外部評価) トイレ誘導の際は大きな声で声かけをしない、男性用小便器を使用するときはカーテンを閉める等、声かけや対応に気を付けている。職員間で注意し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 御本人の思いを表せるよう、支援している。上手く表現できない御利用者については表情などの反応で汲み取っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人のペースで過ごしていただいている。どのように過ごしたいか、希望を言えない方も多く見られるが、その日の状態に応じて、対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2, 3ヶ月に一度、近所の美容院の方に来て頂き、髪を切っている。服についても好みを聞き、対応している。訴えることが出来ない方へは御家族に好みの物を聞き、また御利用者の反応を見ながら、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みを聞き、嫌いな物については好む物にメニュー変更している。御利用者に合わせて、細かく刻んだり、水分にトロミをつける等をしている。準備、片付けも行える方には手伝って頂いている。	
			(外部評価) ユニット毎に職員が交代で献立を立て調理している。日々の会話の中で利用者の好みを把握し献立に活かしている。利用者の嫌いなメニューの時は、別メニューを作り、刻み・粗みじん・とろみをつける等利用者の状態に合わせて調理をしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じ物を食べ楽しく食事ができている。また、利用者の希望に応じて、休暇村や回転すし等外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量は把握している。出来るだけ飲んでもらえるよう、飲んでもらいやすい時間帯や好みの味などを把握している。水分が取れていない方にはジュースにしたり、ゼリーにしたりと、御本人の好みに合わせて提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行えている。口腔状態によっては、口腔ケア用スポンジを使用により、御利用者に応じたケアができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中2、3時間毎にトイレ誘導している。訴えがある時はその都度対応し、一人一人の状態に合わせて、使用するオムツの種類を変えている。夜間もその方の状態に合わせて、オムツの種類や排泄介助する時間を変えている。	
			(外部評価) 利用者のトイレ誘導を適切に行い、トイレでの排泄を支援している。夜間にオムツを使用する利用者には日中は紙パンツでの対応や、紙パンツを使用する利用者には布パンツでの対応する等、自立に向けた排泄支援を行っている。トイレは男性用小便器を設置したり、トイレ入り口をカーテンに変更して広くしたりする等工夫している。便秘対策として散歩や運動、腹部マッサージ、ホットパック、センナ茶を飲むなどスムーズに排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日排便チェック表にて排便状況を確認している。日頃より排便が出るよう、体操などで身体を動かしてもらい、水分も良く摂ってもらっている。便秘時には看護師に報告し、センナ茶か下剤を服用してもらうことで、排便のコントロールをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴については、毎日午後から行っている。体調や御利用者の希望に応じて、支援している。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回を基本として入浴することができる。入浴が苦手な利用者には無理強いせず、声かけを工夫したり違う職員が対応してみる等気持ち良く入浴できるよう支援している。浴槽にはバラの花や入浴剤を入れるなどユニット毎に工夫して、利用者がゆっくり入浴を楽しむことができるようにしている。1階にはリフト浴を設置し、利用者の身体状態に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 年齢、体調を考慮し、1時間程自室で休んでもらっている。夜間不眠の御利用者に対しては出来るだけ休んでもいただけるよう支援するが、それでも休まれないときには職員とともに過ごしたりと状況に応じた対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬は、理解できるよう処方せんをファイルしている。薬の変更があった時には、口頭と、申し送りノートにて把握できるようにしている。服薬は直接手渡し、落す事がないか飲み込むまで見守りをしている。服薬ができない御利用者はスタッフが介助し服用している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 行事に参加したり、散歩等外出する機会を作っている。室内では、退屈する事がないよう、体操、ボール投げや歌等レクリエーションを行っている。又計算問題、漢字の読み書きなど脳トレも行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日には散歩へ出かけたり、ドライブに出かけている。外へ出かけた様子が見られたら、職員と共に外出している。普段行けないような場所であっても、御家族に協力して頂き、支援している。	
			(外部評価) 日頃から事業所の周辺の散歩や近くの神社に出かける等支援している。今年の夏は猛暑で外出を控えていたが、年間計画を立てて月1回は休暇村や小松公園、丹原公園、温泉等、日頃行けない所にドライブに出かけて利用者は楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小額のお金を所持されている御利用者は、自己管理している。家計簿を使用し、職員が記入し、御本人に確認していただいている。また、定期的に御家族に確認して頂き、サインをしてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙を書くことが出来る方は、御自分で記入している。ご希望があれば、いつでもやり取りができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節に応じた貼り絵をしたり、行事をした際の写真などを貼り、季節感を採り入れている。居心地の良い場所となるよう、ソファや机など状況に合わせて活用している。光や音、臭い、温度などにも注意している。</p> <p>(外部評価) 広いリビングにテーブルを配置して、一角には畳スペースが設けられ家庭的な雰囲気となっている。また、キッチンの調理の様子や音、臭いを感じることができ、行事の写真や季節の花を飾るなど利用者はゆっくり穏やかに過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファで過ごされる方、自室で過ごされる方、他の御利用者と一緒に過ごされる方、それぞれが思い思いに過ごされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に御利用者の使い慣れている家具等を持参していただけるようお願いしている。御家族との写真や仏壇、ベッドなどを置いており、御本人が落ち着くことができるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室入口には家族の了承を得て、利用者の名前を大きく表示しており、利用者は迷わずに自分の部屋に入ることができている。ベッドは様々なタイプがあり、利用者にあったベッドを選択できる。居室には使い慣れた家具や大切な仏壇を持ち込み、家族の写真や花を飾るなど利用者一人ひとりが落ち着いて過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーになっており、各所に手すりを設置している。自室がわかりにくい方もいらっしゃるので、わかりやすいよう少し大きめに表示している。トイレやお風呂場も表示している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム多賀の里
所在地	愛媛県西条市北条231番地1
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/">https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の方とのつながりを大切にしながら、認知症の方でも穏やかに暮らして行けるよう支援している事、又医療との連携を密にして安心して過ごしていただけるようにしている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して11年経過した事業所は地域との交流が深く、「多賀の里」として地域に根ざした事業所となっている。母体法人は多数の高齢者や障害者の事業所を展開しており、事業所間の交流や他職種との交流を図り、法人内の勉強会や新人教育にも熱心に取り組み、法人全体のレベルアップを図っている。3ユニットともに男性職員が副主任を務め、「利用者の声なき声に耳を傾け利用者の笑顔が絶えないように」との共通意識を持って事業所を盛り立てている。管理者と職員は信頼関係が構築されており、事業所の「安全」を目標に掲げ、ヒヤリハットを集約して検討するなど、利用者がより安全な生活を送れるように取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 多賀の里

(ユニット名)       式丁目      

記入者(管理者)

氏名       矢野 貴之 (目見田 恵子)      

評価完了日       平成 25 年 9 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全体としての理念、ユニットとして目標にする理念を、玄関やユニット内に掲示し、一人一人が意識するように心がけている。</p> <p>(外部評価) 開設から11年になる事業所は、当初に作成した理念を継続している。理念はユニット会や勤続年数に応じて開催される会議の中で確認し合っている。また、ユニット毎に掲示して職員全員が共有し実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事への参加は勿論のこと、施設内で行われる行事（夏祭り、クリスマス会等）にも地域の方に参加してもらい、一緒になって行事を作りあげている。中学生や高校生たちもボランティアに来てくれます。</p> <p>(外部評価) 地域住民がボランティアで麦を手刈りして用意した物で麦わら細工やわらで草鞋、しめ縄を作りをしてくれ、事業所の行事には準備段階から参加協力をしてくれる。また、ボランティアによるコーラスやフラダンス、2か月に1回の絵手紙の指導、住職が写経や法話等を受け入れている。年2回、職員による神社の掃除や草引きを行い積極的に交流を深めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 行事、イベントなどを通じて、認知症の方へ関わる機会を提供することにより、啓発、理解を深めていただくようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ご利用者の現状報告および運営状況の報告、行事等の参加の依頼を行っている。地域の方や家族さんからも意見を聞き、サービスの向上に努めている。施設で行っている勉強会の報告も行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、地域住民、市担当者、職員等の参加を得て開催している。開催には多数の参加者が得られるよう夕方に開催する工夫をしている。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、意見交換を行っている。会議録は玄関に置き誰でも閲覧でき、各ユニットにも配布し、必要に応じて朝の申し送りで報告する等、職員全員が共有してサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議には地域住民等、多数の参加を得て開催することができているが、議題を決めて積極的な意見交換を行うことを望みたい。また、会議で出された意見を反映し、ケアの向上に活かすことができるように、さらなる取組みを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護相談員さんの受け入れを行ったり、運営推進会への参加などして頂き、意見交換の場をもつようしている。</p> <p>(外部評価) 市担当者には運営推進会議に毎回参加してもらい、事業所の状況報告や情報交換を行っている。困難事例の相談でアドバイスをもらったり、困った場合には親身になって相談にのってもらえることができる。介護相談員も毎月の訪問があり、気軽に相談できる関係ができている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束については、研修および施設内での勉強会を行ったり、ユニット内でも話し合い、身体拘束のない暮らしができるように支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 胃ろうの管を抜く利用者に対して、家族と話し合いを行いミトンを使用し嚥下機能訓練を行い胃ろうを外すことができた事例がある。外出しようとする利用者には、職員が付き添いながら対応する等、自由な外出を支援している。職員は内部や外部研修に参加し、職員全員で共有して身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) スタッフ間の情報の共有を図り、身体拘束は勿論、言葉による虐待にも十分注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 十分ではないが、研修で学び支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、主任、副主任より入居時に契約に関する説明を行っている。また、支援・ケアに対する事業所の考え方を説明し、ご家族の理解を得るとともに不安の軽減に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者、ご家族の意見に耳を傾けるように努めている。介護相談員の方も定期的に訪問しており、意見を頂いている。面会時などに要望など聞いています。	
			(外部評価) 日頃から家族と管理者や職員とのコミュニケーションが取れており、訪問時に意見や要望を聞くことができている。家族から出された「トイレの戸が狭い」という意見に対し、戸をカーテンに変更する等、できるだけ早い対応に努めている。玄関に意見箱を設置し、利用者や家族から意見を出しやすい工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) いつでも話のできる関係作りと申し送りの時や定期的な面接を行い、話をしている。	
			(外部評価) 職員一人ひとりが目標を立て自己評価を行い、年2回の管理者との面談で上司や会社への意見や要望を言うことができる。すぐに解決できないことは上層部に報告し対応している。管理者と職員との信頼関係が構築されており、日頃から意見やアイデアを積極的に出し合い日々のケアに活かしている。新人教育にも熱心に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者は定期的に行われている会議で事業所の運営状況、意見を言いながら改善を図っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受けたり、施設内で勉強会を行い、学ぶ機会を作っている。各自目標をたて、半年に1回見直している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修での交流や法人内の他事業所のイベントへの参加を通じて交流を図っている。相互研修などもあり、他のグループホームとの交流などもあります。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の状況によって違っているが、日々のケアの中で傾聴、見守りながら、声掛けを頻回にし様子を見ながら信頼関係を築けるように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 聞き取りの中から、利用者、ご家族の不安や要望を理解するようにしている。また、入所当初は、ご家族との連絡を密にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族、ご本人と話し合い、希望・情報を得ながら日常生活全般において支援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者一人一人が活躍できる場を作り職員が感謝の気持ちを伝えることができるような場面作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行事や、日中の散歩などで近所の人に会い、お話したりと馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を把握し、墓参り等に出かけられるよう支援をしている。近隣住民の訪問を大切にしているが、利用者の高齢化やレベル低下に伴い困難になっている。現在は、利用者同士のユニット間の交流や同敷地内のデイサービスとの交流など、新たな馴染みの関係が築かれ大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中でなるべく職員が間に入るようにしている。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、情報の提供を行ったり、ご家族の相談に対しては随時受けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの見直しの際に、ご本人やご家族の意向を聞き、日々の関わりの中でも把握に努め、職員間で情報の共有が図れるようにしている。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で、利用者から思いや意向を聞き取り把握するように努めている。把握が困難な利用者には、表情や日々の動作の中でくみ取るよう努めている。散歩や外出をすると元気になる利用者には、外出する機会を多くする等、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人やご家族、知人等から話を聞き、情報の収集に努めている。又ケアプラン更新時、ご家族の希望など聞き取り入れている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ユニット会などで話し合う機会を持ち、一日の過ごし方や心身の状態を把握し、ケア・支援に活かせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 適宜、ケース会を行い、それぞれの意見を聞き、支援に反映させたり、著しい状態変化（入院等）などには迅速に対応している。	
			(外部評価) 利用者や家族から思いや意向を把握し、介護計画に反映している。職員が利用者の日々の生活の中でくみ取った思いを話し合い、追加や修正をして介護計画を作成している。介護計画の見直しや利用者の体調の変化がある時は、書類を郵送して家族の意見を聞いている。サービス実施状況を生活記録に記載し、月1回のモニタリングに活かしている。また、職員間で毎月カンファレンスを行い、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。気づきなどもメモしカンファレンスや申し送りなどで報告し情報の共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時の状況に合わせて行っており、ご本人やご家族の要望を取り入れるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 神社へお参りに行ったり、美容室へ出かけたり、近くの高校のバラを鑑賞に行ったりなそ、地域資源を活用しながら安全で豊かな生活が営めるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行える ようになっている。また、ご本人さんやご家族の希 望を大切に、入所前のかかりつけ医との関係も継続 している。</p> <p>(外部評価) 週1回の往診と夜間対応をしてくれる安心感から、協 力病院をかかりつけ医としている利用者や家族が多 い。協力病院以外の受診は家族の協力を得て受診す ることができ、家族が同行できない時は職員が対応を している。受診後の病状や服薬変更等は家族に電話や訪 問時に詳細に報告している。利用者や家族、医療関係 者、職員が連携を図りながら、適切な医療を受けるこ とができている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ご利用者の状態変化に対しては職場内の看護師と相 談、状況に応じ担当医に相談、適切に対処できよう にしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) ご本人の身体状況に応じて、ご家族や主治医と相談、 入退院の支援を行っている。できる限り継続的にかわ りができるよう情報の提供を行い、情報の共有ができ るようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時、また状態の変化に応じて、その都度、ご家族 に対して事業所としての考えを説明している。終末期 に対しての指針を定めており、説明も行っている。</p> <p>(外部評価) 家族の強い要望により過去に看取りの実例はあるが、 現在は事業所の職員体制やハード面を考慮して看取り は行わない方針である。入居時に事業所の方針を説明 して、利用者や家族に理解を得ている。また、利用者 の状態の変化に応じて、利用者や家族、医師、職員で 話し合いながら適切な対応を検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらい、急変時にもスムーズに対応できるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、消火避難訓練を実施している。災害時には地域の方にも協力していただけるようお願いしている。また、備蓄も行っている。	
			(外部評価) 年2回消防訓練を実施し、内1回は消防署の協力を得て訓練を実施し、意見やアドバイスをもらっている。また、年1回の水害訓練も実施している。訓練では消火設備の点検や避難経路、避難場所などを確認している。防災マップや非常出口が分かるようにユニット毎に掲示している。災害時には地域住民の協力承諾をもらっている。非常食は乾パンを用意し、防災の日に半分を食べている。	地域とのつながりが強く、地域住民の協力者も多いことから、地域住民と一緒に防災訓練を実施し、いつ起こるか分からない災害に対して、より効果的に対応できる体制づくりを期待したい。また、緊急連絡網を活用した訓練を実施するなど職員の防災意識のさらなる強化を望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重し関わりを持つように心がけている。今後も日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に気をつけていくようにしていきたい。	
			(外部評価) トイレ誘導の際は大きな声で声かけをしない、男性用小便器を使用するときはカーテンを閉める等、声かけや対応に気を付けている。職員間で注意し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援、会話の中で、ご本人の気持ち希望を聞き取れるように心がけている。ご本人が決定できる場面を作るようにしている。自己決定のできない人には、スタッフがその思いを感じ取れるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限りではあるが、一人一人のペースを大切にしているが、希望に添えていない日もただあります。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) わかる方は、自分の好みの服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に、鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。美容室の方に来てもらったりもしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の残存機能を生かしながら、負担を感じないように配慮し手伝って頂いている。食事の内容も個々の好みを取り入れるように努力している。  (外部評価) ユニット毎に職員が交代で献立を立て調理している。日々の会話の中で利用者の好みを把握し献立に活かしている。利用者の嫌いなメニューの時は、別メニューを作り、刻み・粗みじん・とろみをつける等利用者の状態に合わせて調理をしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じ物を食べ楽しく食事できている。また、利用者の希望に応じて、休暇村や回転すし等外出に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養摂取、水分量は、入所者個々によって差がみられる。個々の嗜好に合う物を提供しながら十分な栄養摂取、水分補給ができるように、こまめなチェックをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うように努めている。義歯が気になる方は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の力量、状況に合わせて紙パンツ、パットを使用している。適宜、トイレ誘導し、可能な限りトイレでの排泄支援をしている。	
			(外部評価) 利用者のトイレ誘導を適切に行い、トイレでの排泄を支援している。夜間にオムツを使用する利用者には日中は紙パンツでの対応や、紙パンツを使用する利用者には布パンツでの対応する等、自立に向けた排泄支援を行っている。トイレは男性用小便器を設置したり、トイレ入り口をカーテンに変更して広くしたりする等工夫している。便秘対策として散歩や運動、腹部マッサージ、ホットパック、センナ茶を飲むなどスムーズに排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を心がけている。困難な方には緩下剤を服用、調整したり、水分補給、ヨーグルトなど乳酸菌を飲用していただくなどの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴することは可能であるが、ご本人の希望に沿って行っている。入浴を嫌がるご利用者には声掛けの工夫をして清潔の保持ができるように支援している。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回を基本として入浴することができる。入浴が苦手な利用者には無理強いせず、声かけを工夫したり違う職員が対応してみる等気持ち良く入浴できるよう支援している。浴槽にはバラの花や入浴剤を入れるなどユニット毎に工夫して、利用者がゆっくり入浴を楽しむことができるようにしている。1階にはリフトを設置し、利用者の身体状態に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状況に応じて休息を取って頂いている。夜間の睡眠は、個々によって違うが覚醒時には、声掛けや見守りを行い、十分な休息が取れるよう支援している。その人のペースに合わせた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師の報告、指示を受けながら、薬の説明書なども読み、その効果、副作用等についての知識を持つようにしている。服用時にはスタッフ間で確認しながら服薬支援することで間違いのないようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご本人のできる事や興味を持てることを理解し、場面に応じた支援をしている。食事作りの手伝い、折り紙、パズルなど本人の負担にならないように取り組んでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には近くの神社へ散歩にいたり、地域の行事に参加したりしている。ドライブや外食などもしているが、個々の希望に添えない日もある。  (外部評価) 日頃から事業所の周辺の散歩や近くの神社に出かける等支援している。今年の夏は猛暑で外出を控えていたが、年間計画を立てて月1回は休暇村や小松公園、丹原公園、温泉等、日頃行けない所にドライブに出かけて利用者は楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持って入所されている方がいない、買い物などについては、必要に応じ、ご家族の了解を得て行っている。その時は、事務所がだしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙をご自分からしたいと言われる方はいないが、電話や手紙を受け、やり取りができるよう支援は行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) できる限り混乱を招かないよう配慮・工夫をし、心の落ち着く空間作りに努めている。入所者の方が過ごしやすい環境づくりを心がけている。</p> <p>(外部評価) 広いリビングにテーブルを配置して、一角には畳スペースが設けられ家庭的な雰囲気となっている。また、キッチンの調理の様子や音、臭いを感じることができ、行事の写真や季節の花を飾るなど利用者はゆっくり穏やかに過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 気の合ったご利用者同士で過ごしたり、ソファや和室で過ごしたりと好む場所で過ごすことができるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれの部屋は、使い慣れた物を使用し、ご本人、ご家族の想いの空間を作っている。</p> <p>(外部評価) 居室入口には家族の了承を得て、利用者の名前を大きく表示しており、利用者は迷わずに自分の部屋に入ることができている。ベッドは様々なタイプがあり、利用者にあったベッドを選択できる。居室には使い慣れた家具や大切な仏壇を持ち込み、家族の写真や花を飾るなど利用者一人ひとりが落ち着いて過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室やトイレが分かるように張り紙をしている。できるだけ自立した生活がおくれるよう、混乱のないように工夫している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム多賀の里
所在地	愛媛県西条市北条231番地1
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/">https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方とのつながりを大切にしながら、認知症の方でも穏やかに暮らして行けるよう支援している事。又医療との連携を密にして安心して過ごしていただけるようにしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して11年経過した事業所は地域との交流が深く、「多賀の里」として地域に根ざした事業所となっている。母体法人は多数の高齢者や障害者の事業所を展開しており、事業所間の交流や他職種との交流を図り、法人内の勉強会や新人教育にも熱心に取り組み、法人全体のレベルアップを図っている。3ユニットともに男性職員が副主任を務め、「利用者の声なき声に耳を傾け利用者の笑顔が絶えないように」との共通意識を持って事業所を盛り立てている。管理者と職員は信頼関係が構築されており、事業所の「安全」を目標に掲げ、ヒヤリハットを集約して検討するなど、利用者がより安全な生活を送れるように取り組んでいる。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム多賀の里

(ユニット名) 参丁目

記入者(管理者)  
氏名 杉田千恵(目見田恵子)

評価完了日 25年9月17日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全体の理念と各ユニット毎の理念もある。又、スタッフの名札の裏に理念をかいている。また、スタッフはこの理念を目指し、常に利用者様が地域の方との交流も含め、笑顔で過ごしてもらえるよう第1に心掛けている。	
			(外部評価) 開設から11年になる事業所は、当初に作成した理念を継続している。理念はユニット会や勤続年数に応じて開催される会議の中で確認し合っている。また、ユニット毎に掲示して職員全員が共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 多賀の里も10年が過ぎ地域の方との顔馴染みの方がいる。季節ごとの行事では、地域の方に声を掛けたり、来られた時には、挨拶をしたりと交流に繋げている。また、近くの高校生にも、ボランティアで、夏祭りに参加してもらっている。他中学生の皆様にもボランティアに来ていただいている。	
			(外部評価) 地域住民がボランティアで麦を手刈りして用意した物で麦わら細工やわらで草鞋、しめ縄を作りをしてくれ、事業所の行事には準備段階から参加協力してくれる。また、ボランティアによるコーラスやフラダンス、2か月に1回の絵手紙の指導、住職が写経や法話等を受け入れている。年2回、職員による神社の掃除や草引きを行い積極的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) グループホームでの日々の生活風景を写真にとり、2ヶ月に1回ある地域運営推進会議で地域の方にみてもらっている。また、スタッフが認知症についての勉強会の様子も報告している。それについての意見や、こうゆうことをしたらどうかと、地域の方から言ってくれることもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域の方や家族様からの意見を聞き、どのように利用者様のサービスに繋げていけるか。考え・実践できるか話し合うようにしている。また、災害時の対応も地域の方に意見を聞き、地域ぐるみでの話し合いをしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、地域住民、市担当者、職員等の参加を得て開催している。開催には多数の参加者が得られるよう夕方に開催する工夫をしている。会議では事業所の利用状況や活動報告を行い、意見交換を行っている。会議録は玄関に置き誰でも閲覧でき、各ユニットにも配布し、必要に応じて朝の申し送りや報告する等、職員全員が共有してサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議には地域住民等、多数の参加を得て開催することができているが、議題を決めて積極的な意見交換を行うことを望みたい。また、会議で出された意見を反映し、ケアの向上に活かすことができるように、さらなる取組みを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村担当者に運営推進会議などに参加して頂き支援の様子を見て頂き、アドバイスなどもして頂いている。又困難な状況が生じた時など相談にものってもらっている。</p> <p>(外部評価) 市担当者には運営推進会議に毎回参加してもらい、事業所の状況報告や情報交換を行っている。困難事例の相談でアドバイスをもらったり、困った場合には親身になって相談にのってもらえることができる。介護相談員も毎月の訪問があり、気軽に相談できる関係ができている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 色々な外部での研修や月に1回の、勉強会にて身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに努めている。日常での言葉遣いなどもスタッフが気をつけて日々の支援に心掛けている。</p> <p>(外部評価) 胃ろうの管を抜く利用者に対して、家族と話し合いを行いミトンを使用し嚥下機能訓練を行い胃ろうを外すことができた事例がある。外出しようとする利用者には、職員が付き添いながら対応する等、自由な外出を支援している。職員は内部や外部研修に参加し、職員全員で共有して身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は絶対にしてはいけない事だと認識し、虐待についての研修にも参加している。虐待にはどのようなことがあるのかを勉強し、言葉遣いや行動に一人一人が気をつけて支援している。またスタッフ同士で注意できるよう取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学んで支援しているが、あまり理解していないスタッフもいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者や主任・副主任より入所時に契約の説明を行っている。また、支援については施設の考え方を説明している。それをふまえて家族様の支援に対しての希望も聞いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、苦情を言える利用者様に対しては、管理者や職員に話しており、なるべく要望に行えるよう対応している。家族様とは、面会時にコミュニケーションをとり要望をきいています。また、ユニット会などでも話し合っています。	
			(外部評価) 日頃から家族と管理者や職員とのコミュニケーションが取れており、訪問時に意見や要望を聞くことができる。家族から出された「トイレの戸が狭い」という意見に対し、戸をカーテンに変更する等、できるだけ早い対応に努めている。玄関に意見箱を設置し、利用者や家族から意見を出しやすい工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個々の面接を行ない会社に対する、要望や意見をきいている。ユニット会などでも話し合い、リーダーより上司に伝えてもらっている。 (外部評価) 職員一人ひとりが目標を立て自己評価を行い、年2回の管理者との面談で上司や会社への意見や要望を言うことができる。すぐに解決できないことは上層部に報告し対応している。管理者と職員との信頼関係が構築されており、日頃から意見やアイデアを積極的に出し合い日々のケアに活かしている。新人教育にも熱心に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 入職時に就業規則や給料規則の説明を受けている。色々と資格を取得すればそれなりに上がっている。資格取得の為会社として、研修など設けてくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 自己目標を立ててもらったり、本人の興味のある研修・上司が必要だと思う研修に参加してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他の事業所の主任、副主任が集まりネットワークをつくる取組みをしている。看護師会を作り定期的に情報交換を行っている。管理者、職員など組織全体の研修などもある。相互研修などもあり他のグループホームとも交流を図っている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人、家族様とコミュニケーションを多くとり、利用者様、家族様の不安の軽減に努めている。また、笑顔で声かけすることも心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前より施設を、見学していただいたり、家族様の要望、意見などをよく聞き、関係作りに努めている。また、入所当初は家族様との連絡を蜜に行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所前から情報を把握し、又本人、家族様とのコミュニケーションを多くとり、必要としている支援について話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様一人ひとりが出来る事、出来る場を作り一緒に行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ユニット内での行事（夏祭り、クリスマス会）等に家族の方にも参加してもらっている。又普段から些細な事でも電話などで情報を知らせ常に家族様との絆を密にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 携帯電話で、家族様と話がされたり、同じユニットだった利用者様に逢いに行ったりしている。  (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を把握し、墓参り等に出かけられるよう支援をしている。近隣住民の訪問を大切にしているが、利用者の高齢化やレベル低下に伴い困難になっている。現在は、利用者同士のユニット間の交流や同敷地内のデイサービスとの交流など、新たな馴染みの関係が築かれ大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者同士で、同じ机に座ってもらったり、みんなで体操やレクリエーションなどをして関わりをもてる様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが、終了しても希望があれば相談にのったりして対応している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人、家族様との話し合いをし把握に努めている。日々のスタッフとの、会話や利用者様同士の会話の中からできるだけ、本人の希望に添える様に検討している。	
			(外部評価) 日々の関わりの中で、利用者から思いや意向を聞き取り把握するように努めている。把握が困難な利用者には、表情や日々の動作の中できみ取るよう努めている。散歩や外出をすると元気になる利用者には、外出する機会を多くする等、利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者様、家族様との会話、関わりの中で、情報を収集し把握に努めている。また、ケアプラン見直しの際にも御本人・家族様の意向を聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方を十分に把握し、ケア、支援に活かせるように務めている。また、変わったことなどもその都度スタッフ同士で話し合って現状を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月に1回のユニット会で、スタッフの話し合いにて計画書の見直し、作成を行っている。又状態の変化などあれば、その時々に応じて検討し介護計画書作成のしなおしをしている。	
			(外部評価) 利用者や家族から思いや意向を把握し、介護計画に反映している。職員が利用者の日々の生活の中でくみ取った思いを話し合い、追加や修正をして介護計画を作成している。介護計画の見直しや利用者の体調の変化がある時は、書類を郵送して家族の意見を聞いている。サービス実施状況を生活記録に記載し、月1回のモニタリングに活かしている。また、職員間で毎月カンファレンスを行い、現状に即した計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は、日常生活記録として、カルテに記載している。また、職員同士で変わったことなどを報告、又申し送りノートなど利用して共有して、介護計画の見直しなどに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人様、家族様に生活歴など聞き本人や家族様の要望にできる限り応える事が出来るよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くの神社にお参りしたり、散歩時での近隣住民の方々と話をしたり、ドライブとかに行き、四季折々の風景や花などみたりして日々安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。美容室なども利用している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族様が希望するかかりつけ医を受診してい る。体調不良時には、家族と連絡を密にとり受診して いる。週1回往診があり、日々の健康管理を行い変化が あれば主治医に相談している。	
			(外部評価) 週1回の往診と夜間対応をしてくれる安心感から、協 力病院をかかりつけ医としている利用者や家族が多 い。協力病院以外の受診は家族の協力を得て受診する ことができ、家族が同行できない時は職員が対応をし ている。受診後の病状や服薬変更等は家族に電話や訪 問時に詳細に報告している。利用者や家族、医療関係 者、職員が連携を図りながら、適切な医療を受けるこ とができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) いつもと違う変化があれば看護師に報告し、みても らっている。状況に応じて主治医に報告し指示を受け るようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、病院との連絡を取り合い、また家族様とも 話しあいながら入退院の支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態の変化があった場合には、話し合いの場を設けて 施設としての考え・また主治医の助言を踏まえて家族 様と話し合いをしている。	
			(外部評価) 家族の強い要望により過去に看取りの実例はあるが、 現在は事業所の職員体制やハード面を考慮して看取り は行わない方針である。入居時に事業所の方針を説明 して、利用者や家族に理解を得ている。また、利用者 の状態の変化に応じて、利用者や家族、医師、職員で 話し合いながら適切な対応を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時対応の研修に行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい訓練なども定期的に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練や水害訓練も実施し、簡易担架の作り方も勉強している。また、災害時には地域の方に協力して頂けるようお願いしている。	
			(外部評価) 年2回消防訓練を実施し、内1回は消防署の協力を得て訓練を実施し、意見やアドバイスをもらっている。また、年1回の水害訓練も実施している。訓練では消火設備の点検や避難経路、避難場所などを確認している。防災マップや非常出口が分かるようにユニット毎に掲示している。災害時には地域住民の協力承諾をもらっている。非常食は乾パンを用意し、防災の日に半分を食べている。	地域とのつながりが強く、地域住民の協力者も多いことから、地域住民と一緒に防災訓練を実施し、いつ起こるか分からない災害に対して、より効果的に対応できる体制づくりを期待したい。また、緊急連絡網を活用した訓練を実施するなど職員の防災意識のさらなる強化を望みたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の性格を理解しつつ、一人一人声掛けや対応を考えて関わりを持つようにしている。声掛けや・対応の仕方をスタッフで共有し、その人に合った支援を心がけている。	
			(外部評価) トイレ誘導の際は大きな声で声かけをしない、男性用小便器を使用するときはカーテンを閉める等、声かけや対応に気を付けている。職員間で注意し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 毎日の会話の中や支援の中で本人さんの思いや希望を聞き取れるように努力しているが、訴えの出来ない方に対しては、日々の生活での行動などで、理解し対応している方もいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様がどのように過ごしたいかを聴き、本人さんのペースで、出来る事を支援している。が希望に添えない日もあります。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 2~3ヵ月に一度は、美容院の方に来てもらい髪を切っている。また、美容室に行きたい方はおつれしている。服などは、本人さんが好きな者を着てもらおうようにしている。が訴えの出来ない方は、家族様に聞いて出来るだけ意に沿うよう心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様によっては、食材を刻んだり、下膳や後片付けなどを、出来る人は、一緒にしてもらっている。 (基本的に出来る事をして頂いています。)	
			(外部評価) ユニット毎に職員が交代で献立を立て調理している。日々の会話の中で利用者の好みを把握し献立に活かしている。利用者の嫌いなメニューの時は、別メニューを作り、刻み・粗みじん・とろみをつける等利用者の状態に合わせて調理をしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じ物を食べ楽しく食事ができている。また、利用者の希望に応じて、休暇村や回転すし等外食に出かけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事や水分量は、把握出来ており少ない人は、好きな物を食べたり飲んだりしてもらって対応しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声かけにて、誘導し行っています。無理な方は、スポンジを使って介助しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人1人の排泄パターンを把握し、出来るだけでトイレで排泄出来るよう支援しています。また、日中は、出来るかぎり布パンツを使用するように努めています。	
			(外部評価) 利用者のトイレ誘導を適切に行い、トイレでの排泄を支援している。夜間にオムツを使用する利用者には日中は紙パンツでの対応や、紙パンツを使用する利用者には布パンツでの対応する等、自立に向けた排泄支援を行っている。トイレは男性用小便器を設置したり、トイレ入り口をカーテンに変更して広くしたりする等工夫している。便秘対策として散歩や運動、腹部マッサージ、ホットパック、センナ茶を飲むなどスムーズに排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給、散歩や体操など身体を動かすよう声掛けしている。それでも出ない場合はセンナ茶・下剤などで排便を促すよう働きかけています	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間は、遅出勤務者が、入浴介助をしている為、こちらの時間に合してもらっている方が多い。自立している方は、本人の意志を尊重している。	
			(外部評価) 利用者は2日に1回を基本として入浴することができる。希望に応じて毎日入浴することができる。入浴が苦手な利用者には無理強いせず、声かけを工夫したり違う職員が対応してみる等気持ち良く入浴できるよう支援している。浴槽にはバラの花や入浴剤を入れるなどユニット毎に工夫して、利用者がゆっくり入浴を楽しむことができるようにしている。1階にはリフトを設置し、利用者の身体状態に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の状態を観察しながら午前か午後もしくは入浴後などに1時間程度自室にて休んでもらっています。夜間覚醒されている時には、リビングで過ごしてもらったりし、その人のペースにあわせた支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々が使用している薬の種類を把握し、症状に変化があれば看護師に報告し指示をもらっている。また、服薬時には個々の名前を確認し、服薬の確認も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に出来る事を見つけ、歌や脳トレ・折り紙や家事などを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には、近くの神社へ散歩へ行ったり季節によっては近くに咲く花を見に行ったりしている。又ドライブや外食なども行っているが、一人一人のその日の希望には、添えない日もあります。	
			(外部評価) 日頃から事業所の周辺の散歩や近くの神社に出かける等支援している。今年の夏は猛暑で外出を控えていたが、年間計画を立てて月1回は休暇村や小松公園、丹原公園、温泉等、日頃行けない所にドライブに出かけて利用者は楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ユニット内では、3人お金を所持している。使用すれば家計簿につけて管理している。また、定期的に家族様にサインをもらい確認をもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話で家族様に連絡をとられている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 月々、季節にあったカレンダーを作成し行事などの写真なども飾っている。 廊下や居室などの不要なものはのけている。又ユニットだけでなくホールなどでくつろいでいる方もいる。</p> <p>(外部評価) 広いリビングにテーブルを配置して、一角には畳スペースが設けられ家庭的な雰囲気となっている。また、キッチンの調理の様子や音、臭いを感じることができ、行事の写真や季節の花を飾るなど利用者はゆっくり穏やかに過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) お話しが好きな方は、同じテーブルに座り話をされたり、ソファでくつろぐ方もいます。和室なども利用しています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や、仏壇、家族様との写真・孫様の書かれた絵などを飾っている。基本的には、居室は個々のお家と同じと言う考えなので、家族様やご本人に任せていますが、本人様にとって、危険と感じられる物については、持って帰っていただく事もあります。</p> <p>(外部評価) 居室入口には家族の了承を得て、利用者の名前を大きく表示しており、利用者は迷わずに自分の部屋に入ることができている。ベッドは様々なタイプがあり、利用者にあったベッドを選択できる。居室には使い慣れた家具や大切な仏壇を持ち込み、家族の写真や花を飾るなど利用者一人ひとりが落ち着いて過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 施設内はバリアフリーになっている。またトイレと居室の場所はわかりやすいよう大きな字で張り紙をしている。</p>	